

西ドイツにおける医史学教育について

エドアルド・ザイドラー

一、西ドイツにおける医学教育に占める医史学の現況

医史学は、単にその字義の示すような歴史の学問ではなくて、日常の医療にも応用可能な科学の一分野である。心理学、社会科学と同様に、医史学は、医学における人文学に属するものであり、実地医療上の知識の習得や理解を助ける手段を拡張するものでもある。

さらに医史学の分野は、学際的であり、医学にとっても重要な関連諸分野つまり研究の結果からすれば各々独立しているように見える哲学、心理学、史学、民俗学などの分野と密接な係りを有する。

西ドイツで現に医史学の研究に携っている者の、右に述べたような医史学の定義もしくは概念は、変りつつあり、決して最終的な見解ではない。

二、西ドイツにおける医史学の発達

十九世紀半ばまで、「過去」の研究は、理論医学、実地医学の中でも重要な地位を占めてきた。つまり伝統的なものを見直しをすることが、医学上の進歩の本質的部分であると暗黙的に了解されていたのであった。

何か新しい情報が含まれていないかと史料が吟味され、もし新しい発見があれば過去の経験の標準と比較吟味されたのである。

歴史の研究は、史的 (historical) というより医学的 (medical) なものであり、したがって医史学は、教育上や研究上の独立した分野とは言えなかつた。

自然科学の一つとして医学の勃興と共にこのような状況も変化した。試行錯誤の連続であつたともいえる。

歴史家や文献学者が医史学に興味を持つようになった。医史学は、どのような点から観ても、元来は医療とは直接結びつかないで、言語学、史学として発達してきた。

ドイツではわずか数ヶ所の研究所があつた。とくに有名なのは、ライプツヒとベルリンで、そこでは第二次大戦後まで医学上の史料についての歴大な研究がなされてきた。

この分野や組織での目覚ましい変革は過去わずか二十年の間に生じた。その主な理由は、医学に対する人々や世界の通念——それまでは主として自然科学のみによって形作られてきたものであつた——が大きく変わったことによる。

そして研究や医学の訓練を受ける状況が偶発的に変化したからでもあつた。

三、西ドイツにおける医史学の組織の現況

一九六二年末、医史学の教授の席が二三の大学や研究所に設けられ、その大半は研究所に附属したものである。教授のいない施設では他大学から講師を派遣してもらつて医史学の講義を行っている。

唯一の例外を除いて研究所のスタッフは医学部と密接な関係を有し、教育陣の一翼を荷っている。

研究所は、設備や財政規模によつて、施設によつて大きく異なり、研究員も二人から二十人と区々である。教授は一般に学位を有する医師であるが、研究員は歴史学者、文献学者、自然科学者などから成っている。彼らは一般に常勤である

が、昇進は制限されている。

医学教育に関する新しい規約によって、医学史教室は主として医学用語を新入生に教える。ほかの講義、セミナー、研修旅行なども計画され、学生の要望にも合致するようにしてある。筆記試験でも数問の医学史の問題に解答しなければならない。

四、医学教育における医学史の機能

現在の医学史の責務はもはや純然たる歴史的な事項の探索という作業や慣例によってのみ評価されてはならない。

医学史学者が研究によって行おうとすることは、過去の「健康」(health)、「疾病」(illness)によって意味される所のもののモデルを入念に作り上げることである。この類のモデルの基本的要素を詳細に検討することによって、現在の種々の問題がよりよく、鮮明に理解されるからである。医療の世界においても、われわれの時代に適合した医の哲学が必要であるばかりでなく、同時に医学の多くの分野においても、実際に医学史の援助を求めている。したがって西ドイツでは、医学史教室ないし研究室は、社会医学、伝染病学、人類学、民俗医学、さらに一般病理学、精神病理学、医倫理学などの教室と密接に連絡をとって活動している。

歴史的なものを考えるという教育は、医学のどの分野においても初歩的、基本的なことであり、さらにこの教育は、危機に面している「精神」(a critical cost of mind)に活気を与えることにある。

学生には、肉体と精神、健康と疾病の根本的概念、老若の問題、診断と治療の一般原理、ストレスや不安、臨終時の行動のモデルなどを教えなければならない。

医学の歴史は、右に述べたすべての事象が、それに先行する「過去」の上に成立しており、これらの事象が経験されたり、引き起したりすることに関しても「過去」に依存していることを私共に教えてくれる。

現在われわれがなしうる史的研究を行うことは、「現在」(the present)をよりよく把握し、他の分野と同様に、医学の
進歩発展とその人間性の復活に貢献するものと考えられる。

(原英文翻訳 松木)

(西ドイツフライブルグ大学医史学教室教授)